

一 般 質 問 通 告 書

平成 23 年 8 月 1 5 日 提出

嵐山町議会議長 藤野 幹男 様	議席番号 1 3	氏 名 渋谷登美子	受付番号
下記のとおり質問したいので通告します			
	質 問 事 項	質 問 要 旨	答 弁 者
1	3 . 1 1 以降のまちづくりについて (答 弁 書 不 要)	福島原発事故以降、日本中が放射能汚染されている。放射線の影響は、胎児、乳児、幼児の順で、身体への影響が深刻である。 持続不可能な日本にしないためにも、100年くらいは、子どもを放射能被ばくをできるかぎりさせない方向が必要になっている。 (1) 土壌汚染による農業への影響への評価と対応 (2) 子どもたちの居場所の放射能汚染への対策 線量計測と対応について聞く。 福島県と比較するのではなく、過去の埼玉県の数値と現在の嵐山町の数値の比較が必要 (3) 内部被ばくと外部被ばくを加えた総量が、年間1ミリシーベルト以下にする政策が必要であるが、どのように実現させるか考えを聞く (4) 子どもが活動する場、校庭、園庭などの表土を1cm削ると、空間放射線量は5分の1から10分の1程度に低くなる。 今後、30年で2分の1,60年で4分の1,90年で8分の1の低下なので、早い段階で、子どもが活動する場の土壌の除染が子どもの生育環境を守る。実施を求める。 (5) 食物の放射線量測定器の購入について 今後100年近くは、半減期の長い放射線物質の影響は避けられず、子どもの内部被ばくにかかる原因となる食べ物・水・土壌の放射線量は、身近で計測して安全性確保が必要である。身近に放射線測定器を設置すべきであり、考えかたは。 (6) 予測される財政面での次年度以降の影響について聞く。	町長
2	地域の支えあいについて (答 弁 書 不 要)	(1)地域の支えあいに、子どもたちが参加して進めると、地域が活性化することが推測できる。 かつて、ちょボラの動きがあったが、ちょボラを身近な地域で行い、介護保険の対象にならない方の簡単なサポートは、中学生や小学生でも行える。その場合、地域通貨的に100円のお駄賃的な発想や学校通知表への反映があると進む 交流センター・学校を中心にして実施を (2) 子どもの地域応援団を設置し、子どもの地域応援団と学校応援団の交流で地域の支えあいを	教育長